

第34回 寒地土木研究所



Web講演会

視聴 無料

公開期間 (限定配信)

2020.11.16(月)~11.22(日)

第34回 寒地土木研究所講演会は
新型コロナウイルス感染防止の観点より、
Web講演会として開催いたします。

発表課題

特別
公演

「近年の豪雨災害の特徴と気候変動を踏まえた
今後の治水計画に係る検討」

北海道大学大学院工学研究院 准教授 **山田 朋人**

一般
公演

■ 「寒冷地の地盤災害にまつわる研究開発」

寒地地盤チーム
上席研究員 **畠山 乃**

■ 「極端気象がもたらす雪氷災害の被害軽減のための技術開発」

雪氷チーム
上席研究員 **萬 直樹**

■ 「災害時の技術指導におけるCIM活用」

つくば中央研究所 地すべりチーム
上席研究員 **杉本 宏之**

視聴のお申し込みは

寒地土木研究所HP

<http://www.ceri.go.jp/>



2.5単位 JSCE20-0688

※本講演は、公益社団法人土木学会継続教育(CPD)プログラムとして認定されています。

お問い合わせ 国立研究開発法人 土木研究所 寒地土木研究所 寒地技術推進室 TEL:011-590-4046 FAX:011-590-4048

第34回 寒地土木研究所Web講演会

特別講演

「近年の豪雨災害の特徴と気候変動を踏まえた今後の治水計画に係る検討」

北海道大学大学院工学研究院 准教授

山田 朋人



講演者プロフィール

- 2002年3月 芝浦工業大学工学部土木工学科 卒業
- 2004年3月 東京大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻 修士課程修了
- 2007年3月 東京大学大学院工学研究科社会基盤学専攻博士課程後期課程修了 博士(工学)
- 2007年4月 NASAゴッダード宇宙飛行センター他、米国メリーランド大学ボルティモア校 博士研究員
- 2009年4月 北海道大学大学院工学研究科 准教授
東京大学生産技術研究所 協力研究員
国立環境研究所 協力研究員
- 2011年4月 北海道大学大学院工学研究院 准教授
(現在に至る)

【委員歴】

- World Climate Research Programme, Global Energy and Water Cycle Experiment/Global Land-Atmosphere System Study Panel Member
- 日本学術会議環境学委員会・地球惑星科学委員会合同FE・WCRP合同分科会GEWEX 小委員会委員
- 北海道開発局 北海道地方における気象変動予測(水分野)技術検討委員会委員
- 国土交通省 気候変動を踏まえた治水計画に係る技術検討委員会
- 国土交通省・北海道 北海道地方における気候変動を踏まえた治水対策技術検討委員会

【受賞歴】

- 2010年3月 土木学会水工学論文奨励賞
- 2014年 第58回北海道開発技術研究発表会北海道開発局長賞
土木学会地球環境論文奨励賞(3件;共著者)
- 2016年 北海道大学研究総長賞(奨励賞)
- 2018年度 河川技術に関するシンポジウム優秀発表者賞
- 2018年度 土木学会水工学論文奨励賞(共著者)
- 2018年度 土木学会河川技術論文賞

一般講演

寒冷地の地盤災害に

まつわる研究開発



寒地土木研究所
寒地地盤チーム
上席研究員
富山 乃

寒地地盤チームでは、安全・安心な社会を守る基盤整備を実現するため、「土工」、「軟弱地盤」、「基礎」の分野を柱に研究開発を行っています。

具体的には、寒冷地に広く分布する泥炭性軟弱地盤、火山灰質土やその他の特殊な地盤に建設される土木施設の安全性、経済性、耐久性を高める技術、のり面の凍上・凍結対策技術、冬期に施工する土工の品質を向上させる技術、のり面の緑化、改良した不良土による盛土など、寒冷地の地盤にまつわる種々の研究を進めています。

極端気象がもたらす雪氷災害の

被害軽減のための技術開発



寒地土木研究所
雪氷チーム
上席研究員
萬 直樹

近年、猛吹雪、集中的な大雪、雪崩に伴い、多数の車両の立ち往生や長時間に亘る通行止め、集落の孤立などの障害が発生しています。こうした極端な気象がもたらす雪氷災害の発生地域や発生形態、災害規模は様々で、多発化・複雑化が見られることから、その対策は喫急の課題と言えます。

雪氷チームでは、大雪や暴風雪など極端気象がもたらす雪氷災害の実態解明とリスク評価技術を開発するとともに、広域に適用できる視程障害予測技術の開発、吹雪対策施設の性能向上技術の開発などを実施しており、今回はこれらの内容を紹介します。

災害時の技術指導における

CIM活用



つくば中央研究所
地すべりチーム
上席研究員
杉本 宏之

土砂災害発生時の警戒避難体制の構築や応急対策工事等の対応の迅速化、省力化、安全性の向上のため、新技術の積極的な活用が求められています。土砂管理研究グループ地すべりチームでは、3次元地形モデル(CIMモデル)をバーチャル現場モデルとして地すべり災害対応に活用する方法をまとめ、技術資料(案)として公表しています。3次元地形モデルを活用することで、リモートでも現地状況を的確に把握できるため、効率的かつ迅速な技術支援につながる事が期待されます。今年の災害対応において、本技術を活用してリモートで状況把握や技術指導などを行った事例を交え、土砂災害時の技術指導等におけるCIM活用と今後の展望について、ご紹介します。